

しもまさだにいづかごみんでん
下増田飯塚古墳群

名取市東部には「墳墓」と呼ばれる場所があります。墳墓は約2800年～1600年ごろにかけて多数の平野が作られていくとときにできたと考えられており、まわりの土地より少し高くなっています。この墳墓上に北から、貝塚古墳、雷沖塚古墳、塚原塚古墳、鹿砂門塚古墳という4基の古墳が並んでいます。(さらに、それらの南東には経ノ塚古墳という古墳もありましたが今はありません。)

このあたりの古墳からは名取市町の内の地域の古墳ではあまり見られないようなものが発つており、名取の歴史を解き明かす上で大変重要な意味を持つ場所となっています。今の経塚古墳遺構場所は、雷沖塚古墳の北側になります。



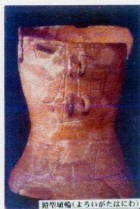
室型埴輪(いしがたはにわ)

II-3-2-a



瓶型埴輪(やういがたはにわ)

II-3-2-b



瓶型埴輪(やういがたはにわ)

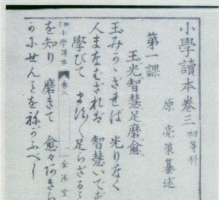
II-3-2-c

経ノ塚古墳から見つかったもの

II-3-2-a

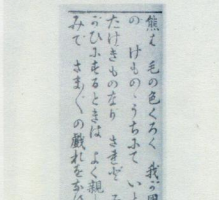
II-3-1

昔の教科書を読んでみよう！①



III-1-a

昔の教科書を読んでみよう！②



III-1-b

昔の教科書を読んでみよう！③



III-1-c

昔の教科書を読んでみよう！

1882年(明治15年)ごろの小学校で使われていた教科書です。「初等科」とありましてから、今の小学校1年生から3年生ぐらいの子供たちが読んでいたものです。

さあ、明治時代の小学生になったつもりで教科書を読んでみましょう！

III